

授業科目(ナンバリング)	ソーシャルワークの理論と方法(共通)Ⅰ (DB207) (実践的教育科目)			担当教員	坂本 雅俊 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	選択
授 業 の ね ら い							アクティブ・ラーニングの類型
福祉人材に求められる専門力の向上を中心に取り組み、ソーシャルワークにおいて求められる各種理論及び方法に関する基礎的な知識の習得を目指す。 具体的には、<u>人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、ケアマネジメントを含むソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ</u>、<u>コンサルテーション</u>とも関連づけてソーシャルワークにおける<u>スーパービジョンについて理解する</u>とともに、<u>集団を活用した支援（グループワーク等）</u>について学ぶことをねらいとする。							①④⑤ ⑦⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・方法	評価比率
専門力	ソーシャルワークに関する理論及び方法について説明できる。 ソーシャルワークに関する基礎的な用語・概念を理解できる。					定期試験 作問課題	20% 30%
情報収集、分析力	ソーシャルワークに関する基礎的な用語・概念を整理できる。					定期試験	20%
コミュニケーション力	ソーシャルワークについて自分の言葉で表現できる。					定期試験	20%
協働・課題解決力	ソーシャルワークに関する事例に取り組むことができる。					定期試験	10%
多様性理解力							
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
定期試験（70%）では、ソーシャルワークに関する知識の習得度を評価する。毎回の作問課題（30%）では、学んだ用語・概念の理解度を国家試験形式で取り組む。必要に応じて、ポートフォリオ上と授業内でフィードバックを行う。 なお、不適切な授業態度（教科書を持参しない、遅刻、私語、携帯電話等の使用、居眠り等）は、発覚した場合に減点の対象となる。							
授 業 の 概 要							
社会福祉士資格を有する教員が担当し、現場経験を活かし、SW 理論を実践と結びつけて理解できるよう学修を行う。 基本的には講義形式で授業を進めるが、理解を深めるためのグループワークとレスポンを使った社会福祉士国家試験の過去問題も頻繁に取り入れる。人と環境との交互作用から出発し、各種実践モデルとアプローチ、グループワーク（集団を活用した支援）、スーパービジョンとコンサルテーションについて学ぶ。「ソーシャルワークとは何か」という根本的な問いを常に意識し、教員の MSW 及び社会福祉士としての実務経験を基に、ソーシャルワーク特有の人間観と援助観を身につける。 本科目の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、180 分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：（一社）日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新・社会福祉士養成講座〈12〉ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』中央法規出版 参考書： 仲村優一監修：日本ソーシャルワーカー協会（1999）『ソーシャルワーク倫理ハンドブック』中央法規 指定図書：相澤譲治他（2006）『スーパービジョンの方法』相川書房							
授業外における学修及び学生に期待すること							
社会福祉士国家試験受験資格の指定科目であるため、国家試験を意識すること。講義を軸にしながら、予習・復習の一環として教科書を事前・事後に確認し、専門書を読む習慣を身につけるなど、抽象度及び専門性の高い内容に対する理解を深められるように努力すること。 なお、本科目専用のノートはもちろん、聞き慣れない専門用語について自分にとって分かりやすい言葉で記入する単語帳を導入することを強く勧める。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	<u>オリエンテーション</u> <u>人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク①</u>	科目全体の説明を経て、ソーシャルワークにおけるシステム論と生態学理論について学ぶ。作問課題①	予習：教科書 10-21 頁 復習：学修目標に関する疑問点の整理
2	<u>人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク②</u>	バイオ・サイコ・ソーシャルモデルについて学ぶ。 作問課題②	予習：教科書 22-27 頁 復習：SW モデルに関する疑問点の整理
3	<u>人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク③</u>	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークへの応用について学ぶ。 作問課題③	予習：教科書 28-34 頁 復習：SW のレベルに関する疑問点の整理
4	<u>ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ①</u>	治療・生活・ストレングスモデルとその関係について学ぶ。 作問課題④	予習：教科書 123-124 頁 復習：ストレングスモデル等に関する疑問点の整理
5	<u>ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ②</u>	心理社会的アプローチと機能的アプローチについて学ぶ。 作問課題⑤	予習：教科書 128-133 頁 復習：機能的アプローチ等についての疑問点の整理
6	<u>ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③</u>	問題解決アプローチと課題中心アプローチについて学ぶ。 作問課題⑥	予習：教科書 134-138 頁 復習：課題中心アプローチ等についての振り返り
7	<u>ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ④</u>	危機介入アプローチと実存主義アプローチとについて学ぶ。 作問課題⑦	予習：教科書 150 頁 復習：危機介入アプローチ等に関する疑問点の整理
8	<u>ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ⑤</u>	行動変容アプローチと認知アプローチについて学ぶ。 作問課題⑧	予習：教科書 142-149 頁 復習：認知アプローチ等についての疑問点の整理
9	<u>ケアマネジメント</u>	ケアマネジメントの概要、過程、特徴について学ぶ。 作問課題⑨	予習：教科書 240-255 頁 復習：ケアマネジメントに関する疑問点の整理
10	<u>ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ⑥</u>	エンパワメント・アプローチについて学ぶ。 作問課題⑩	予習：教科書 156 頁 復習：エンパワメントに関する疑問点の整理
11	<u>ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ⑦</u>	ナラティブ・アプローチと解決思考アプローチについて学ぶ。 作問課題⑪	予習：教科書 160-170 頁 復習：実践モデルとアプローチの整理
12	<u>ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ⑧</u>	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチに関する過去問題を解く。 過去問題演習・作問課題⑫	予習：過去問題の回答 復習：過去問題を再度読み返す
13	<u>集団を活用した支援①</u>	ソーシャルワーカーがファシリテーターを務めるグループワークについて学ぶ。 作問課題⑬	予習：教科書 256-277 頁 復習：ファシリテーターの意味について整理する
14	<u>集団を活用した支援②</u>	セルフヘルプグループ等について学ぶ。 作問課題⑭	予習：教科書 275-279 頁 復習：セルフヘルプに関する疑問点の整理
15	<u>スーパービジョンとコンサルテーション</u> <u>まとめ</u>	スーパービジョンとコンサルテーションの基礎とその違いについて学び、全体まとめを行う。 作問課題⑮	予習：教科書 340-345 頁 復習：定期試験の準備
16	定期試験		